

琉球大学学術リポジトリ

レクリエーション利用者の分析(西表島の森林レクリエーションに関する研究
(II))(農学部附属熱帯農学研究施設)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農学部 公開日: 2008-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 新本, 光孝, 砂川, 季昭, Aramoto, Mitsunori, Sunakawa, Sueaki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/4318

西表島の森林レクリエーションに関する研究(Ⅱ)

レクリエーション利用者の分析

新本光孝* 砂川季昭**

Mitsunori ARAMOTO and Sueaki SUNAKAWA: Studies on the forest recreation in Iriomote Island (Ⅱ). On the analysis of recreation visitors

I は し が き

前報においては、西表島の現況、保健休養資源の特色、森林保護の状況および利用上の問題点、観光企業の進出状況などについて述べたが、本報においては、前報に引続き、とくに同島における森林レクリエーション利用者の実態調査の結果について報告する。

II 出 入 域 者 の 推 移

1. レクリエーション利用者の推移

西表島を含む八重山群島は日本列島の最南端に位置し、亜熱帯圏における19の島からなりたっている¹⁾最近、交通や宿泊事情が漸次向上したので観光客の入域者が多くなっている。

ちなみに、石垣島における入域者の推移を示すと表-1のとおりである。

Table 1. Transition of tourist in Ishigaki Island

年 次	入 域 者 数	%	観 光 客 の 数
昭 和 45 年	82,593 人	30	24,777 人
" 46 "	98,617	30	29,585
" 47 "	122,877	30	36,863
" 48 "	167,228	30	50,168
" " 49 "	201,039	30	91,256

西表島における過去3ケ年間(昭和48年,同49年,同50年)の入域者の推移について示すと表-2のとおりである。

* 琉球大学農学部付属熱帯農学研究施設

** 琉球大学農学部林学科

琉球大学農学部学術報告 23: 413~423 (1976)

Table 2. Transition of tourist in Iriomote Island

年	東 部	西 部	全 体
1973	22,871人	13,107人	35,972人
1974	25,161	18,575	43,736
1975	24,442	17,684	40,045

西表島における入域者は、昭和48年、同49年の1年間の伸び率は東部で約10%、西部で約40%となつて、とくに西部において著しい伸びを示している。昭和50年の入域者数はほぼ前年並みとなっているが、これは主として沖縄本島の本部半島で沖縄国際海洋博覧会が開催されたため、離島への観光入込みが減少したものと思われる。

2. レクリエーション利用者の年別、月別の推移

つきに、過去3ヶ年間の月別の入域者をもてみよう。図-1, 2に年別、月別の入域者を示す。

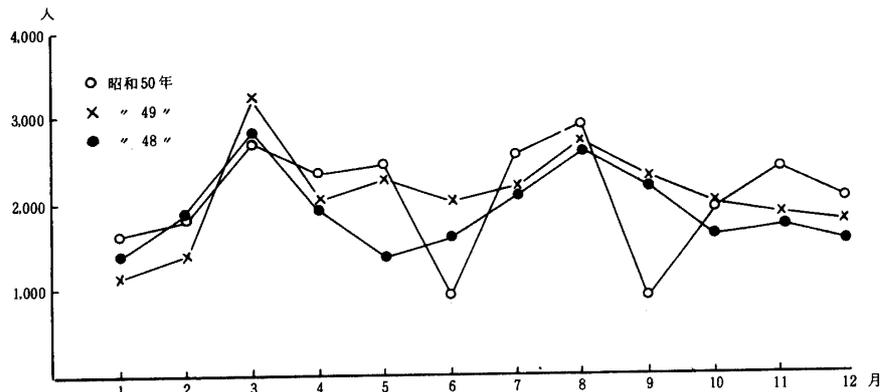


Fig. 1 Number of visitors in each month of each year in east part

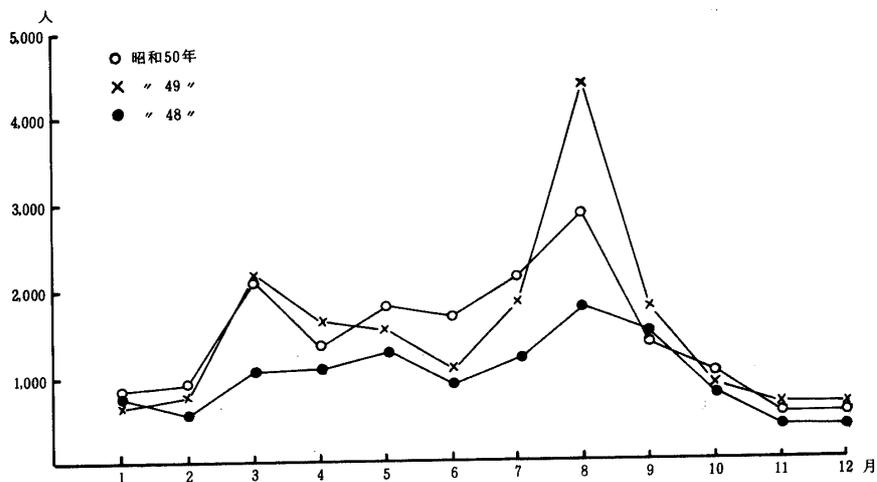


Fig. 2 Number of visitors in each month of each year in west part

東部および西部とも、過去3ケ年ともに3月と8月にピークが現われる。すなわち、西表島の森林レクリエーション利用者は学生・生徒の3月の春休み、8月の夏休みを利用しているものがもっとも多く、同島の森林レクリエーション利用のタイプは、いわゆる春、夏を中心とする二季型のタイプであることが認められる。

III 夏季における利用者の類型

すでに述べたように西表島は離島であるために、同島における森林レクリエーション利用者は、日帰り型と宿泊型の二つのパターンに類型化することができる。しかしながら、従来、これらの実数把握はほとんどなされていない。そのため、本節においては、これら両者はいずれが多いかなど比較検討をするために、レクリエーション利用者のもっとも多い、夏季(7, 8月)を対象として分析することとした。(I)報においても述べたように東部(大原)へは八重山観光フェリー株式会社のホーパークラフト(1日2往復)と貨客定期船2せきが就航しているが、乗船切符の販売業務が民間へ委託されているため適切な資料が全く得られなかった。西部地区へは民間経営による貨客定期船が就航しているが、今回は船浦航路の住吉丸(事務所)の絶大な御協力により格好の資料を得ることができた。したがって、ここでは西部地区のみをとりあげ分析することとする。

表-3に昭和50年7, 8月の入域者を示す。

Table 3. Visitors in summer

年月	県外	県内	西表住民	計
1975年7月	994人 (49.3)	911人 (45.2)	111人 (5.5)	2,016人 (100.0)
" 8月	1,482 (51.0)	1,284 (44.2)	138 (4.8)	2,904 (100.0)

() 内はパーセント

西部地区(船浦港のみ)の入域者数は、7月2,016人、8月2,904人で、この2ヶ月間で約5,000人に達している。そのうちわけは県外の利用者が49.3%、県内利用(西表島を除く)が45.2%、地元西表島住民が5.5%を占めている。

県内利用者のうち70%を森林レクリエーション利用者とし、さらに西表島住民を除いた場合の利用者は表-4のとおりである。

Table 4. Tourist in summer

年月	県外	県内	計
1975年7月	994人 (60.9)	637人 (39.1)	1,631人 (100.0)
" 8月	1,482 (62.2)	899 (37.8)	2,381 (100.0)

() 内はパーセント

すなわち、レクリエーション利用者は7月1,631人、8月2,381人で、県外の利用者は7月60.9%、8月62.2%、県内の利用者は7月39.1%、8月37.8%となって、西表島における森林レクリエーション利用者はほぼ60:40の割合で県内よりも県外の利用者が多い。

つぎに、宿泊型と日帰り型について分析しよう(表-5)。

Table 5. Analysis of a day's visitors

年 月	県 外	県 内	計
1975年7月	129人 (37.6)	214人 (62.4)	343人 (全体の21.0)
“ 8月	146 (37.8)	240 (62.2)	386 (全体の16.2)

() 内はパーセント

森林レクリエーション利用者は、宿泊をするものが7月79.0%、8月83.8%、日帰りをするものが7月21.0%、8月16.2%となって、ほぼ80:20の高い割合で宿泊利用者が多い。日帰り利用者の内容をみても、県外の利用者が7月37.6%、8月37.8%、県内の利用者が7月62.4%、8月62.2%占めて、日帰りの森林レクリエーション利用者はほぼ60:40の割合で県内の利用者が多い。

すなわち、西表島(西部地区)の夏季における森林レクリエーション利用者の類型は、県外からの利用者が宿泊型のタイプであるに対し、地元沖縄本島、宮古島、石垣島からの利用者は日帰り型のタイプであることが明らかとなった。

IV アンケート調査の分析

つぎに、森林レクリエーション利用者のアンケート調査の分析をこころみる。すでに述べたように、西表島における森林レクリエーション利用者は3月と、7、8月の春休みおよび夏休みを利用しているものがもっとも多く、西表島の森林レクリエーションの利用形態はいわゆる二季型(春、夏)のタイプであることがわかった。

そこで、利用者の行動分析および動向把握のため、利用者のもっとも多い夏季と春季(西部地区のみ)に旅館や民宿などを通じてアンケート調査を実施した。調査期間は昭和50年7月20日から8月19日までの1ヶ月間と、昭和51年3月20日から3月31日までの11日間である。しかし夏季の調査はたまたま時を同じくして、西表島を含む八重山離島の地域観光開発基本計画調査(沖縄開発庁沖縄総合事務局総務部)と併行しておこなわれたため、資料の数は東部354通、西部248通、計602通の多くの回答を得た。春季の調査は西部地区のみを対象としたもので62通の回答を得た。

1. 夏季の調査

1) 吸引圏

夏季における森林レクリエーション利用者(宿泊者)を発地別に示すと表-6のとおりである。

宿泊利用者は、東部においては県外76.0%、県内24.0%、西部においては県外74.2%、県内25.8%となって、ほぼ75:25の割合で県内宿泊者よりも県外宿泊者の多いことがわかる。

さらに宿泊利用者を県外についてみると、東部、西部とも関東方面がもっとも多く、それぞれ30.8%、31.5%を占め、ついで近畿地方が多く、その割合はそれぞれ21.5%、25.8%となっている。北海道、東北、中部、中国、四国、九州の各地方は、前二者にくらべて少なく、東部で0.8~8.8%、西部で2.0

～4.9%の範囲にとどまっている。

Table 6. Distribution of visitors

地 方	東 部	西 部	全 体
北 海 道	2.3%	2.8%	2.5%
東 北 地 方	0.8	2.4	1.5
関 東 “	30.8	31.5	31.1
中 部 “	8.8	2.0	6.0
近 畿 “	21.5	25.8	23.3
中 国 “	4.8	2.0	3.6
四 国 “	2.5	2.8	2.6
九 州 “	4.5	4.9	4.6
沖 縄 “	24.0	25.8	24.8
計	100.0	100.0	100.0

このように、西表島の森林レクリエーション利用者の吸引圏は北は北海道から南は沖縄までほぼ全国的におよんでいることが明らかとなった。

2) 交通構造

つぎに、石垣島までの利用者の交通手段について明らかにしよう(表-7)。

Table 7. Means of transportation

項 目	区 間	東 部	西 部	全 体
県 外	本土—那覇			
	航空機	44.2%	29.9%	38.4%
	船 舶	55.8	70.1	61.6
	那覇—石垣			
	航空機	44.2	17.9	33.6
	船 舶	55.8	82.1	66.4
県 内	那覇—石垣 (宮古)			
	航空機	48.9	35.7	44.9
	船 舶	51.1	64.3	55.1

県外利用者についてみると、本土・那覇間で航空機を利用するものは、東部で44.2%、西部で29.9%、船舶を利用するものは東部で55.8%、西部で70.1%を占めて船舶を利用するものが多い。那覇・石垣間についてみると、航空機を利用する者は東部で44.2%、西部で17.9%、船舶を利用するものは東部で55.8%、西部で82.1%となって、いずれも船舶利用者の方が多く、その傾向はとくに西部において著しい。

県内利用者は、航空機を利用するものは東部で48.9%、西部で35.7%、船舶を利用するものは東部で51.1%、西部64.3%となって、東部・西部ともに航空機よりも船舶を利用するものが多い。

以上のように、西表島における森林レクリエーション利用者の交通構造は船舶を利用するものが高い

割合を占めていることがわかった。最近、観光客が大衆化してきたことと、沖縄国際海洋博覧会の開催を契機として、本土・那覇間、那覇・石垣間に就航している船舶は大型化してきており、その需要はますます伸びていくものと思われる。

3) 利用者の構成

レクリエーション利用者を性別でみると(表-8)、東部、西部ともに男性が女性よりも多く、その割合は東部で男性72.0%、女性28.0%、西部で男性71.0%、女性29.0%となっている。

Table 8. Constitution of visitors

年代	性別	東 部			西 部			全 体		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計
10才代		20.8%	17.2%	19.8%	19.3%	25.0%	21.0%	20.1%	20.5%	20.3%
20		64.7	70.7	66.4	67.6	68.0	67.7	66.0	69.6	67.0
30		10.5	9.1	10.1	6.8	4.2	6.1	9.0	7.0	8.4
40		2.0	3.0	2.3	3.4	1.4	2.8	2.6	2.3	2.5
50		2.0		1.4	1.2	1.4	1.2	1.6	0.6	1.3
60才以上					1.7		1.2	0.7		0.5
計		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

年代別にみると、東部で10代19.8%、20代66.4%、30代10.1%、西部で10代21.0%、20代67.7%、30代6.1%となり、西表島の森林レクリエーション利用者は若い層がもっとも多く、10代と20代で全体の約90%を占めている。

職業別の構成を示したのが表-9である。

Table 9. Occupation of visitors

職業別	地区	東 部	西 部	全 体
会 社 員		20.6%	13.0%	17.3%
公 務 員		14.7	16.0	15.3
団 体 職 員		1.1	0.0	0.7
商工自営業		3.1	0.4	2.0
自 由 業		6.5	6.0	6.3
主 婦		1.4	0.4	1.0
学 生		46.6	55.3	50.3
農林水産業		0.6	0.4	0.5
無 職		4.3	6.5	5.1
そ の 他		1.1	2.0	1.5
計		100.0	100.0	100.0

東部についてみると、学生・生徒46.6%、会社員20.6%、公務員14.7%の順となり、西部においては学生・生徒55.3%、公務員16.0%、会社員13.0%の順となって、西表島の森林レクリエーション利用者の職業構成は学生・生徒がもっとも多いことが明らかとなった。

4) 行動の規模

行動の規模を把握するために、グループの構成および滞在期間について示したのが表-10, 11である。

Table 10. Constitution of group

項目	東 部	西 部	全 体
単 身	23.2%	23.3%	23.6%
新 婚 旅 行	2.8	1.2	2.1
家 族	5.4	4.8	5.1
職 場	7.3	4.8	6.3
友 人	55.9	60.1	57.6
団 体	1.1	0.8	1.0
学 校	0.3	0.0	0.2
そ の 他	4.0	4.5	4.1
計	100.0	100.0	100.0

Table 11. Term of stay

期間	地区	東 部	西 部	全 体
1 泊		0.0%	0.0%	0.0%
2		30.2	21.4	24.2
3		22.3	13.0	16.6
4		5.1	10.9	6.8
5		6.0	4.4	4.9
6		4.5	5.5	4.5
7		2.8	6.5	3.9
8		5.1	7.3	5.5
9		1.4	2.7	1.8
10		0.6	2.0	1.1
11		4.5	3.2	3.6
12		1.4	4.0	2.3
13		1.4	0.4	0.9
14		2.5	0.0	1.4
15泊以上		5.1	11.2	6.9
不 明		7.1	7.5	6.6
計		100.0	100.0	100.0

グループの構成は、友人グループとつれだってくるものが多い、東部で55.9%、西部で60.1%を占め、ついで単身が多く、東部で23.2%、西部で23.8%となっている。

滞在期間についてみると、東部においては2泊30.2%、3泊22.3%、4泊5.1%、5泊6.0%、西部においては2泊21.4%、3泊13.0%、4泊10.9%、5泊4.4%となり、東部においては2～3泊、西部においては2～4泊を中心とする宿泊型が大きな比重を占めていることが明らかとなった。

5) 利用上の性格

利用目的および西表島でもっとも印象に残ったものについて示したのが表-12, 13である。

Table 12. Visit object

項目	地区	東 部	西 部	全 体
新 婚 旅 行		2.0%	0.8%	1.5%
自 然 探 勝		26.3	28.2	27.1
風 景 鑑 賞		48.9	39.1	44.9
慰 安 旅 行		2.8	0.4	1.8
公 用		3.7	4.8	4.1
仕事兼観光		4.0	7.3	5.3
学 術 調 査		4.5	8.1	6.0
何となしに		5.0	8.5	6.5
知 人 訪 問		0.8	0.4	0.7
そ の 他		2.0	2.4	2.1
計		100.0	100.0	100.0

Table 13. Impression on Iriomote Island

項目	地区	東 部	西 部	全 体
自然の美しさ		93.4%	89.9%	91.7%
生 活 様 式		3.2	4.9	4.0
民 芸 品		0.0	0.8	0.3
民 族 芸 能		3.0	1.6	2.5
文 化 財		0.2	0.0	0.2
そ の 他		0.2	2.8	1.3
計		100.0	100.0	100.0

利用目的でもっとも多いのは、東部、西部、ともに風景鑑賞であって、それぞれ48.9%、39.1%を占め、ついで自然探勝でそれぞれ26.3%、28.2%となつて、風景鑑賞と自然探勝でそれぞれ全体の75.2%、77.3%を占めている。

西表島でもっとも印象に残ったものは、マングローブ林や熱帯・亜熱帯の植物、それに島をとりまくコバルトブルーの海域を中心とする「自然の美しさ」と答えた人がきわめて多く、東部で93.4%、西部で89.9%にもものぼっている。

これらのことから西表島の森林レクリエーション利用上の性格は風景鑑賞と自然探勝が中心課題であることが明らかとなった。

2. 春季の調査

春季における森林レクリエーション利用者の吸引圏および交通構造を一括して表示したのが表-14である。

Table 14. Distribution of visitors and means of transportation

地 方	%	利用者	区 間	%
北 海 道	0.0	県 外	本 土——那 覇	
東 北 地 方	1.6		航 空 機	32.7
関 東 “	22.9		船 舶	67.3
中 部 “	6.6		那 覇——石 垣	
近 畿 “	36.1		航 空 機	23.3
中 国 “	3.3		船 舶	76.7
四 国 “	11.5		県 内	那 覇——石 垣
九 州 “	3.3	航 空 機		22.2
沖 縄 県	14.7	船 舶		77.8

1) 吸引圏

春季における森林レクリエーション利用者(宿泊者)を発地別にみると、近畿方面がもっとも多く36.1%を占め、ついで関東方面が多く、その割合は22.9%となっている。春季も夏季におけると同様に、利用者の吸引圏はほぼ全国的におよんでいる。

2) 交通構造

石垣島までの交通構造は、県の内外をとわず、船舶を利用するものが多い。

3) 利用者の構成

利用者の構成、行動の規模などについて一括して示したのが表-15である。

Table 15. Constitution of visitors in spring

項 目	%	項 目	%		
性 別	男	67.2	グループの規模	2人	41.7
	女	32.8		3~4 "	41.7
年 齢	10才代	30.0		5~6 "	13.9
	20 "	68.3		7~8 "	0.0
	30 "	1.7		9 "	0.0
	40 "	0.0		10人以上	2.7
職 業	サービス業	1.6	滞在期間	1泊	30.4
	公務員	9.7		2 "	8.9
	主婦	1.6		3 "	8.9
	学生・生徒	72.6		4 "	10.7
	無職	6.4		5 "	7.1
	その他	8.1		6 "	1.8
				7 "	1.8
グループの構成	家族	2.9		8 "	8.9
	友人	54.4		9 "	3.6
	職場	1.5		10 "	1.8
	学校	0.0		11 "	1.8
	団体	0.0		12 "	1.8
	単身	39.7		13泊以上	12.5
	その他	1.5			

利用者を性別で見ると男性 67.2%, 女性 32.8% となり, 年代別では 10代 30.0%, 20代 68.3%, 30代 1.7% となって, 夏季と同様に若い男女がもっとも多い。職業は, 学生・生徒がもっとも多く 72.6% を占め, 公務員 9.7%, その他, 無職, サービス業の順となっている。

4) 行動の規模

利用者の行動の規模についてみると, 友人グループとつれだってくるものがもっとも多く 54.4% を占め, その規模は 2 人が 41.7%, 3~4 人が 41.7% となって, ほとんどが 2~4 人づれであることがわかった。滞在期間をみてみると, 1泊 30.4%, 2泊 8.9%, 3泊 8.9%, 4泊 10.7% となって, 夏季にくらべると 1泊して帰るものが多い。しかし相対的には, 4泊以内の宿泊型が約 60% を占めている。

5) 利用上の性格

利用上の性格を明らかにするため, 利用目的および西表島でもっとも印象に残ったものについて示したのが表-16である。

Table 16. Visit object and impression in Iriomote Island

利 用 目 的		印象に残ったもの	
項 目	%	項 目	%
キ ャ ン プ	6.7	自然の美しさ	72.2
風 景 鑑 賞	21.7	島の素朴さ	11.1
自 然 探 勝	41.6	生 活 様 式	2.8
研 究 調 査	20.0	単 独 横 断	2.8
そ の 他	10.0	そ の 他	11.1

利用目的では風景鑑賞と自然探勝が 63.3% を占め, 動・植物の研究調査も 20.0% にもものぼっている。西表島でもっとも印象に残ったものは, 夏季と同様に熱帯・亜熱帯の植物, 同島周辺の海域, 星砂などを含めた「自然の美しさ」と答えた人が 72.2% にもものぼっている。

以上のように, 春季においても西表島の森林レクリエーション利用上の性格は風景鑑賞と自然探勝が中心となることが明らかとなった。

V 摘 要

この研究は, 亜熱帯的自然景観をほぼ完全に保有する西表島をとりあげ, 森林レクリエーション利用者の動向を把握するためにおこなったものである。

調査の結果を要約するとつぎのとおりである。

1. 入域者の分析

- 1) 西表島における過去 3 ケ年間 (昭和 48 年, 同 49 年, 同 50 年) の入域者は漸次増加の傾向にある。
- 2) 西表島における森林レクリエーション利用のタイプは, 春および夏を中心とする二季型であることが認められる。
- 3) 西表島 (西部地区) の夏季における森林レクリエーション利用者の類型は, 県外の利用者が宿泊型であるに対し, 県内の利用者は日帰り型であることが明らかとなった。

2. アンケート調査の分析

1) 吸引圏

吸引圏は、北は北海道から南は沖縄までほぼ全国的におよんでいる。

2) 交通構造

交通手段は、本土・那覇間、那覇・石垣間ともに航空機よりも船舶を利用しているものが多い。

3) 利用者の年代および職業

利用者は若い層が多く、10代と20代で全体の約90%を占めている。職業は学生・生徒がもっとも多い。

4) 行動の規模

利用者の構成は、友人グループ(2~4人)とつれだってくるものが多い。滞在期間は2~4泊を中心とする宿泊型が大きな比重を占めている。

5) 利用上の性格

森林レクリエーション利用上の性格は、風景鑑賞と自然探勝が中心課題である。

この研究調査をおこなうにあたり、資料を提供していただいた沖縄開発庁沖縄総合事務局総務部佐久本暁氏、竹富町開発課大屋泰則氏、ならびにアンケート調査に御協力をいただいた、みはらし旅館、船浦荘、民宿ヒナイ館、民宿上原、まるま荘、カンピラ荘に対して深謝の意を表する次第である。また、資料の計算および図表の作成に尽力していただいた津嘉山健、新本美千代の各位に対しても深甚の謝意を表したい。

なお、この研究は昭和50年度文部省科学研究費によるものである。

参 考 文 献

1. 沖縄県庁八重山支庁：1975 八重山要覧 P100~101

Summary

1. The purpose of the present study is to make it clear that the constitution of recreation visitors in Iriomote Island.
2. In this report, the authors also to grasp seasonal variation of visitors and surveyed the distribution, the means of transportation, the occupation and the impression of recreation visitors by inquiry reserch.